

来年度の F C サポートネットワーク会員募集を前倒し、年内よりサービス開始

一般財団法人

コージェネレーション・エネルギー高度利用センター

一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センター(東京都港区虎ノ門 1-16-4、理事長 柏木孝夫)は、エネファーム普及の更なる加速を支援するため、当財団が実施しているエネファーム販売事業者への支援活動「FC サポートネットワーク」の来年度会員募集を例年の 1 月中旬から 12 月 16 日に前倒しすることとしました。申込者には申込み受付次第、会員サービスの提供を開始いたします。

F C サポートネットワーク会員向けの支援メニューには、従来よりニーズの高かった「光熱費シミュレーションソフト」や「折畳み式エネファーム展示模型」等の既存メニューに加え、最近では「既築営業ノウハウ集」や「既築営業研修」等、既築戸建市場に対する営業力強化にフォーカスした支援メニューを充実させております。

以下主なサポート内容です。

●既築営業ノウハウ集

既築でのエネファーム設置台数は全体の 40%弱をしめており、販売の高実績店の取材や高成績営業マンからヒアリングした販売のノウハウを 1 冊にまとめました。営業体制の取り方、お客様に接する場合の考え方やトーク例など、ポイントを抑えた 1 冊です。エネファームの既築への販売をご検討の会社さんには必見です。

●既築営業研修

エネファームは現時点ではまだ高額な商品であり、従来ガス機器販売から考え方を少し変える必要があります。エネファーム販売経験のある講師を擁し、各社や各団体の営業講習をお手伝いしております。エネファーム販売の意義から実践的なトーク研修、現場での OJT 指導まで、ご用意しております。

またセミナーや勉強会も定期的に開催しており、好評です。

●光熱費シミュレーションソフト

「光熱費シミュレーションソフト」は、エネファームの営業に不可欠な営業ツールでありながら、その開発には多大な費用と時間を要するため、標準的なガス事業者が自由に扱えるソフトを保有することは困難でした。ACEJ が開発したソフトは、エネファーム (PEFC (固体高分子型)、SOFC (固体酸化物型)) の他にもエコジョーズ(潜熱回収型給湯器)やエコウィル(ガスエンジン式家庭用コージェネシステム)、太陽光発電等を導入した場合の光熱費を計算でき、多数ご活用いただいております。

●折畳み式エネファーム展示模型

「折畳み式エネファーム展示模型」は、イベント用途等を想定した折畳みが可能な実物大の展示模型で、メーカー製作の展示模型等と比べ、以下のような特長を有しています。

- ・必要な時に必要な場所で組み立てられ、不要な時は梱包して保管できる。
- ・持ち運びが容易。
- ・運送費を含め、購入費用が安価

多数ご購入いただいています。

< F C サポートネットワークの概要 >

エネファームの全国普及を目指し、当センターが運営する会員制のエネファーム販売ガス事業者支援活動です。現在の会員数は 98 事業者。

(個々の会員事業者名については http://www.ace.or.jp/fc/initiative_0010.html 参照。)

◇当センターによる主な事業者支援内容(原則有償)

- ・営業面での支援 : 営業ツール(お客様・事業者向け各種)の提供、営業教育機会の提供、参考情報の提供等
- ・施工・メンテナンス面での支援 : 工事用共通部材の紹介、施工・メンテナンス教育機会の提供、技術相談等

◇ F C サポートネットワークの年会費(来年度より)

47,500 円(税抜き)/年 (税込み 51,300 円)を予定

◇当センターと他法人との連携

当センターの F C サポートネットワーク事業は、エネファーム導入先行企業の 4 社さま(J X 日鉱日石エネルギー株式会社、東京ガス株式会社、大阪ガス株式会社、東邦ガス株式会社)からの要員、ノウハウ、コンテンツ等のバックアップ、ならびにエネファームメーカーさまからの技術協力等をいただいております。

< 参考 : 財団概要 >

- ・名称 : 一般財団法人 コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
- ・英語名称 : Advanced Cogeneration and Energy Utilization Center Japan (A.C.E.J)
- ・所在地 : 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1 丁目 16 番 4 号 アーバン虎ノ門ビル 4 階
電話 : 03-3500-1612 ファックス : 03-3500-1613 URL : <http://www.ace.or.jp>
- ・理事長 : 柏木 孝夫 (東京工業大学特命教授、東京都市大学教授)
- ・事業目的 (定款第 3 条より抜粋)

本財団は、環境負荷低減に資するエネルギー利用機器・システムの高効率化に向けた技術開発、及び普及拡大に向けた調査研究等により、コージェネレーションシステムをはじめとするエネルギーの高度利用を促進するとともに、～(中略)～ 地球環境の保全並びに国際社会に貢献し、国民生活の向上に寄与することを目的とする。

- ・会員 : 正会員 140 社、特別会員(団体)22 団体、特別会員(個人)57 名

(2013 年 12 月現在)